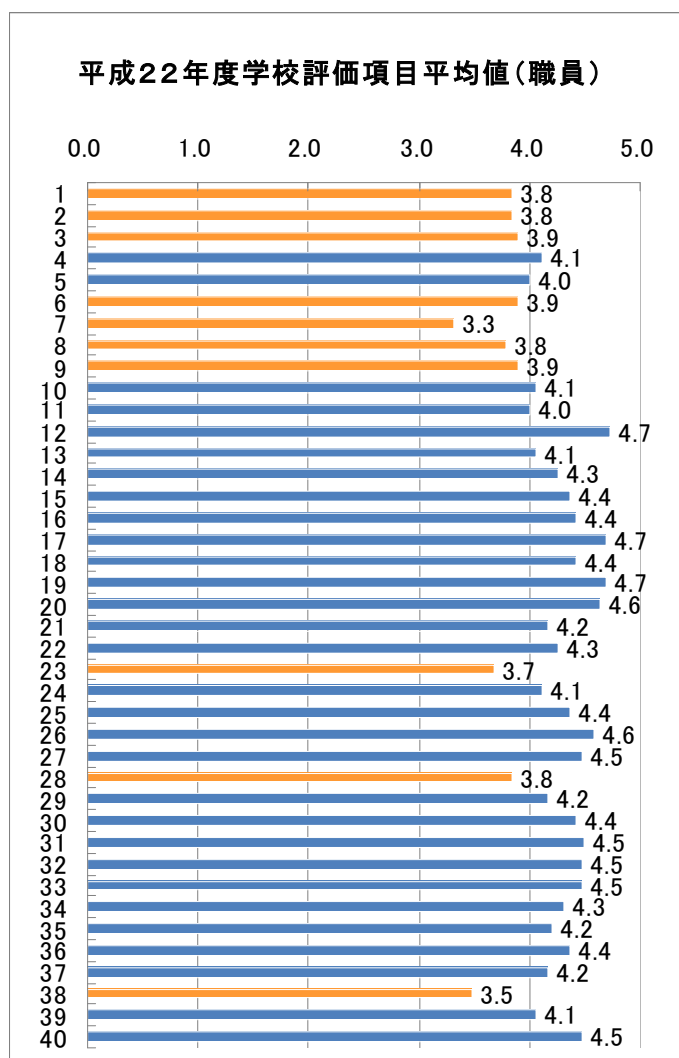


1	実施日	平成22年1月13日(水)		
2	生徒(回収数)	195/203	回収率	96.1%
3	教員(回収数)	18/18	回収率	100.0%
4	保護者(回収数)	174/189	回収率	92.1%(14組兄弟入学)
5	質問用紙(生徒用、教員用、保護者用)	別添		

I 教員の評価

昨年と比較し、評価平均値が3.8を上回る項目は26項目から37項目(+11)に増加し、評価平均値4.0を上回る項目は16項目から30項目(+14)、評価平均値が3.0を下回る項目は1項目から0項目(-1)に減少し、全体として教員の評価は高まっているといえる。

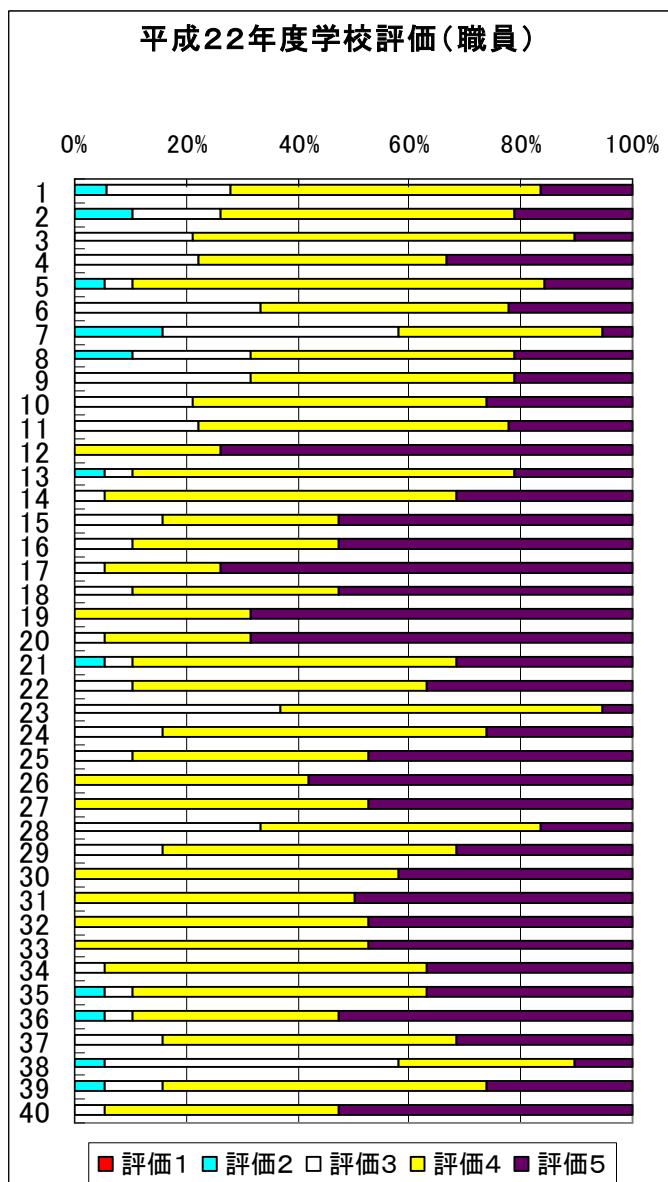


評価が0.3ポイント以上増加している項目は、一昨年9項目から昨年10項目(+1)、今年は20項目(+10)に増えている。その項目は、3、8、11、12、13、14、15、16、17、18、20、29、30、31、35、36、37、38、40と多岐に渡る。

特に、項目36「地域活動の参加」、項目38「図書館の利用」は0.8ポイント増加している。また、項目11「学習合宿」は2年連続で0.7ポイント増加したが、実施方法の大幅な見直しを行い、3月学習合宿に通い合宿の形態を取り入れたためと思われる。それ以外には項目14「三者面談」、項目30「修学旅行の内容」、項目31「修学旅行の充実」が0.6ポイント増加、項目8「個別添削」、項目10「補修」、項目12「進路ガイダンス」、項目16「進学情報」、項目17「職場体験」、項目37「清掃活動」が0.5ポイント上昇している。

一方、昨年より評価が減少した項目は、項目28「部活動」だけだった。

項目4「進路希望に応じた科目の設定」は平成18年度の評価平均値が2.9と低かったが、多様な進路に応じた教育課程編成を行うことにより、国公立大学合格や希望職種への就職等の進路実績が向上し、それに伴って評価が高まり昨年の評価平均値は4.0、今年度の評価平均値は4.1(+0.1)になった。



左のグラフは、各評価の割合を示したものである。評価5と評価4を合わせた割合を、肯定的評価と考えるとき、肯定評価が50%を超える項目が多数を占めている。そうでないものは昨年の5項目から今年度は2項目（－3）に減少している。その項目は、

- 7「週末課題」
- 38「図書館の利用」

逆に、否定的イメージの強い項目に注目すると（評価1と評価2を合わせた割合が20%を超えるもの）昨年度の2項目から0項目（－2）に減少した。

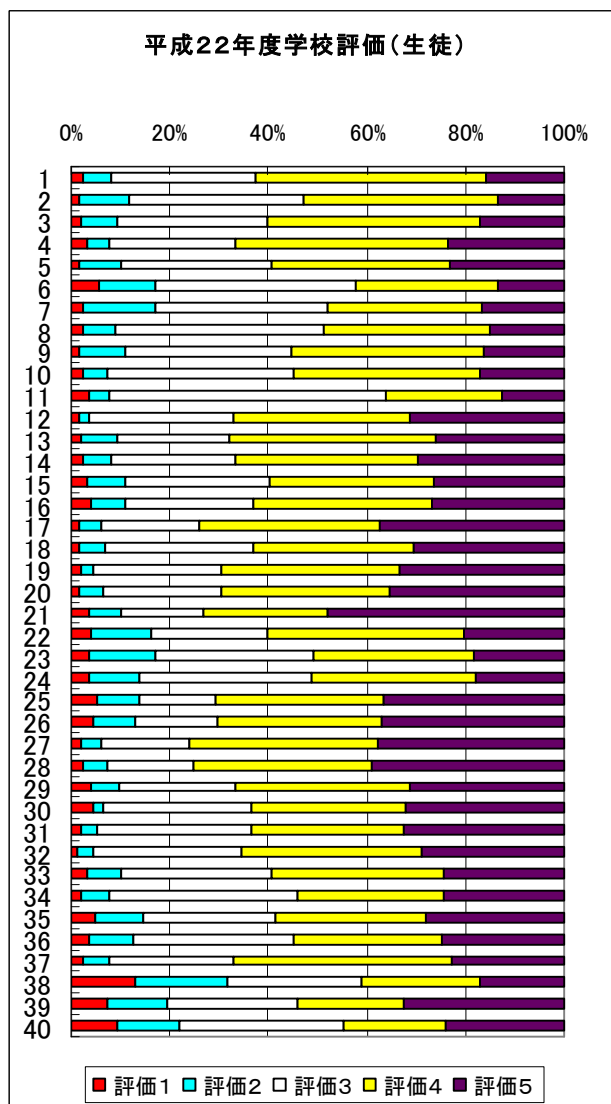
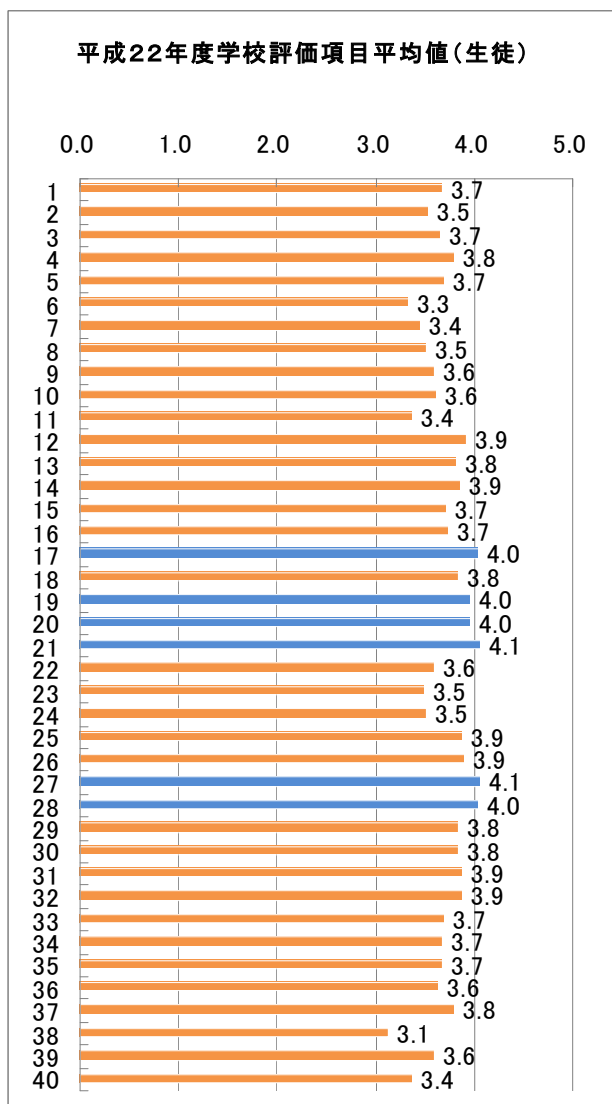
以上から考察されることは、教員の意識の中で、学習指導に関わる項目で否定的評価をしている項目が多いことが分かる。進路実績等は向上しているものの、多種多様な生徒がいる中で、基礎学力をつけるためにはどうすればよいか、また上位層の学力を向上させるにはどうすればよいか、まだまだ模索している様子が見える。また、項目38「図書館の利用」は評価1、評価2が依然として多いが、昨年度に学級図書を設置を行い図書館の整備を行っていることから徐々に評価が高まったと思われる。

昨年度は、項目8「個別添削指導」、項目10「補習授業」、項目11「学習合宿」の学習面に係る項目に評価3の割合が多いと指摘されていたが、改善されたようである。

II 生徒の評価

生徒の評価傾向は、一般的に全ての項目で評価3（どちらともいえない）の回答が多い場合が普通であるが、昨年度から評価5（よい）、評価4（どちらかといえばよい）が増加し、評価5と評価4を合わせた肯定的評価は全体の61%（昨年度55%）と高評価になっている。

評価平均値を教員と比較すると1項目で教員の評価平均値を上回っている。生徒の全項目評価平均値が一昨年度の3.5から昨年度3.7、今年度も3.7となっていることから、生徒の学校生活満足度が向上していると思われる。次ページのグラフが示すとおり、一昨年度より多くの項目で評定平均がアップしているのは特筆すべきである。評価平均が3.5を超える項目が一昨年度は23項目、昨年度は36項目と大幅に増加したが、今年度も37項目（+1）と増加している。



一昨年度は評価平均値が 4.0 を越える項目はなかったが、昨年度 8 項目、今年度 6 項目で評定平均値が 4.0 を越えた。

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 17 「職場体験」 | 19 「就職試験指導」 | 20 「進学試験指導」 |
| 21 「生徒指導」 | 27 「応援活動」 | 28 「部活動」 |

なお、評価平均値が 0.3 ポイント以上増加した項目は 5 項目あった。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 6 「朝学習」 | 19 「就職指導」 | 20 「進学試験指導」 |
| 30 「修学旅行内容」 | 31 「修学旅行の充実」 | |

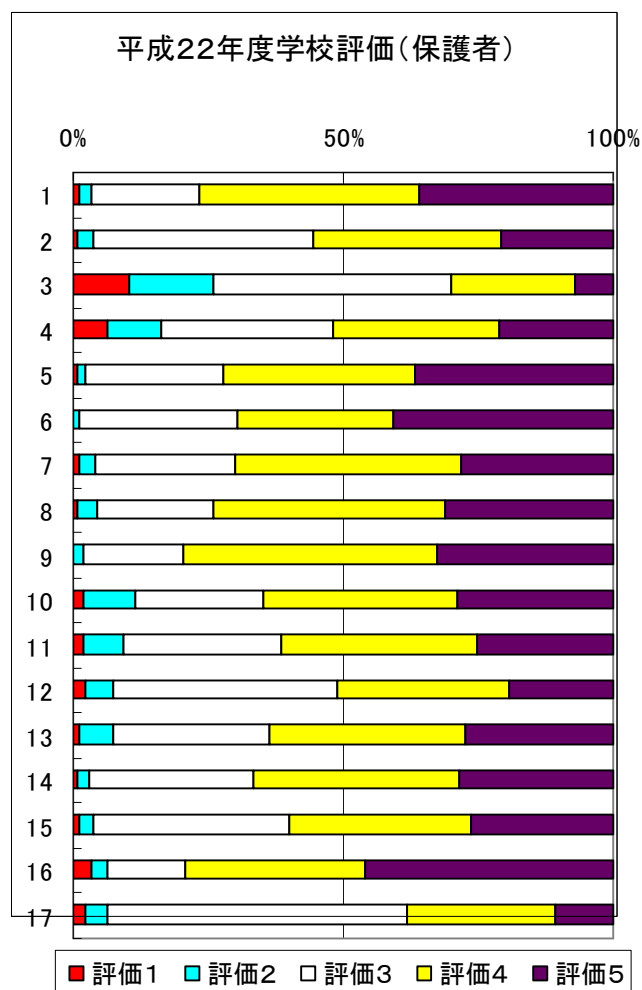
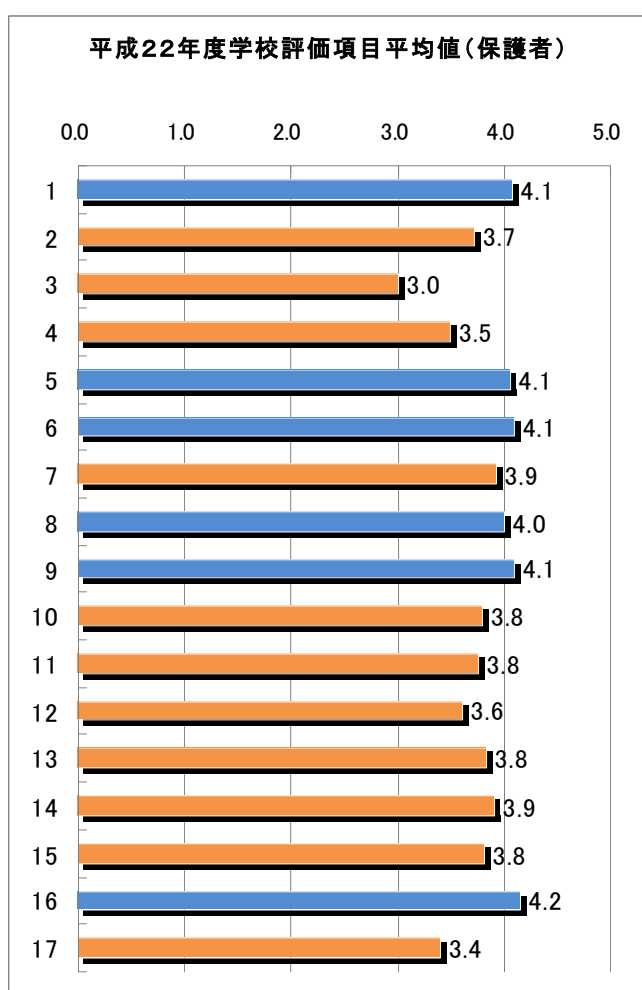
評価 5 と評価 4 を合わせた割合（肯定的評価）は総じて増えて、評価 1 と評価 2 を合わせた割合（否定的評価）が 20% を超えた項目は昨年度と同様の 2 項目と少ない。項目 38 「図書館の利用」は年々改善されているものの教員評価も低いのでこれからも利用促進に工夫が必要である。また項目 40 「入学したい学校」が評価値平均は 3.4 と昨年度と同じであるが、評価 1 または 2 としたものが若干増えている。項目 39 「この学校に入学してよかった」の評価も昨年と同じ 3.6 であることを考えると西和賀高校での毎日の生活に満足している生徒も多いが、評価の低い生徒も複数いることから、すべての生徒が満足を感じ高校生活を送ることができるようにさらなる学校づくりに励まねばならないと考える。

Ⅲ 保護者の評価

過去6年間の保護者の評定平均は下記のように年々上昇していることが分かる。

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
評価平均	3.5	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	3.8

評価平均値が3.8を上回る項目は12項目、評価平均値4.0を上回る項目は6項目、一方、評価平均値が3.0を下回る項目は0項目である。また、評価平均値が高値にもかかわらず昨年度に比べ評価平均値が増加している項目が2項目あることは特筆すべきことである。このことから、保護者の西和賀高校への評価が高いことを理解できるが、反面、西和賀高校への期待は相当に大きいものと推測される。

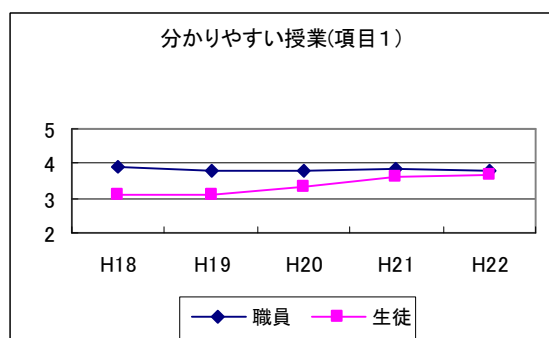
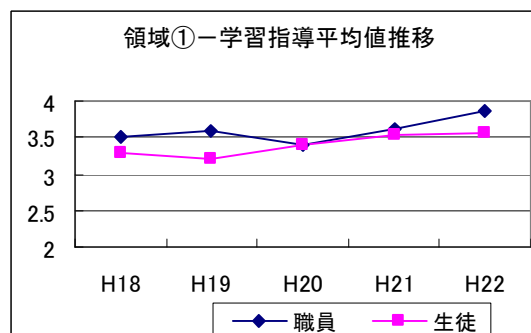


項目3「家庭での学習について」は昨年度と同様に評価が3.0と最低である。評価1と評価2を合わせた割合(否定的評価)でも20%を超え問題視されている。家庭学習の定着は、学力向上と進路実現のために必要な習慣であり、定着させることは大きな課題である。これは学校だけの力で解決できる問題ではないので、家庭との連携を進めるなど家庭と学校が一体となって効果的な方策を進める必要がある。

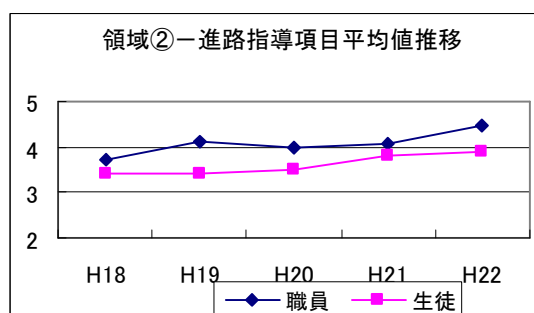
Ⅲ 過去5年間における推移

各領域ごとの平均値をとり、過去5年間の推移をグラフに示したものが左及び次ページに示されている。

- 領域① 学習指導 項目1～11
- 領域② 進路指導 項目12～20
- 領域③ 生徒指導 項目21～27

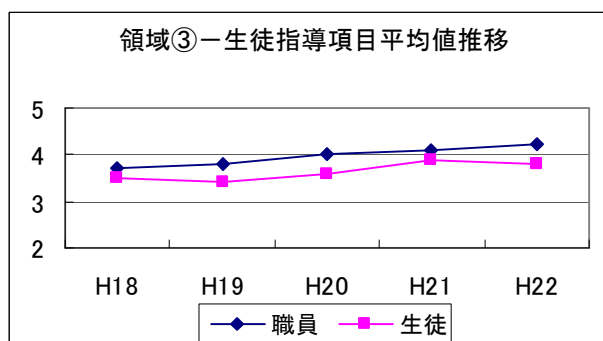
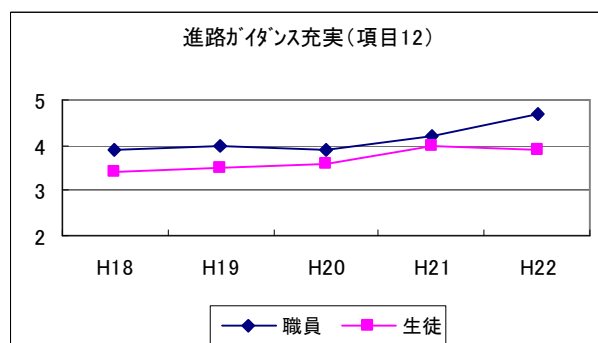


領域①〔学習指導〕については、生徒の意識がH19年度に若干低下したものの上昇している。学習に対する取り組みや意識レベルが上がったと思われる。一方教員はH20年度に下がったものの、その後上昇している。項目1「分かりやすい授業がなされているか」のグラフのとおり。生徒の評価が上がっているのが注目すべきである。



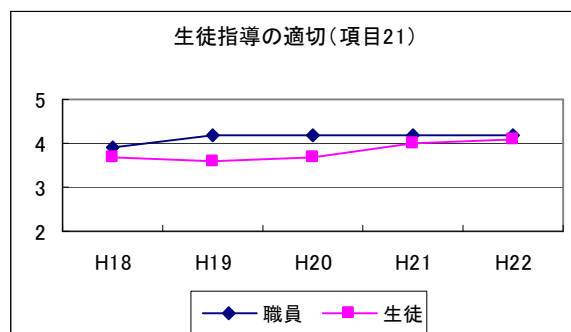
領域②〔進路指導〕については、生徒の満足度は上昇、教員についても4.0以上に上昇していることから全体的には好ましいと考えられる。個人面談・三者面談をとおしてきめ細かい進路指導や科目選択指導を行ったためと思われる。

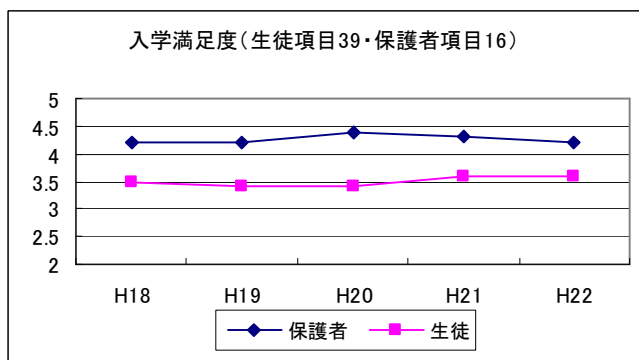
項目12「進路ガイダンスは充実しているか」については、右のグラフのとおりである。H17年度より生徒も教員も評価が高く、上昇している。



領域③〔生徒指導〕については、左のグラフが示すとおり、右上がりのグラフである。生徒指導に関しては、個々に批判も見られるが総じて指導を肯定的に受け入れていると考えられる。

それを裏付ける項目21「生徒指導の適切さ」に、生徒・教員ともに肯定的評価である。II生徒の評価のグラフからも分かるように、生徒の評価5と評価4の割合(肯定的評価)は73.2%、教員については89.5%である。





最後に、左のグラフは、入学満足度に対する生徒と保護者の評価平均値の推移である。保護者も生徒も毎年上昇を続け、保護者は4.2、生徒は3.6と高い値になっている。生徒の評価平均値が、保護者の評価より若干低めなので、保護者と同様に高くなることが望ましい。

IV 最後に

この6年間、ほぼ同じ内容で、同じ時期に学校評価を実施してきた。少子化のために地元西和賀町から入学する生徒の割合が減少している半面、多様な生徒に対応する教育が求められている。この学校評価はこれまでの推移を見ながら比較検討するうえで多いに役立っている。実際、昨年度の反省から今年度改善してきたことは多数ある。その結果、今年は多くの項目で高い評価を得ることにつながったと思っている。

図書館の利用についても、図書館の整備や図書館だよりの発行、学級図書の購入、学級文庫の設置と取り組んだことで、わずかながら評価が高まっている。しかしながら依然として低評価であることは変わらないので次年度も工夫と改善に取り組みたい。

また、学校評価の結果から、職員・生徒・保護者ともに西和賀高校の評価が高いという結果が見えてくる一方、ひとつひとつの項目に対する評価（3.4以下）からは西和賀高校の課題として見えてくるものがある。

- 1 上位者指導のためのあり方
 - ① 週末課題（教員、生徒）
 - ② 学習合宿（生徒）
- 2 基礎学力をつけるための指導の在り方
 - ① 家庭学習（保護者）
- 3 学校図書館の有効活用（教員、生徒）

以上の課題をさらに分析し、次年度の教育活動で改善するように取り組んでいきたい。

なお、記述式の調査では、生徒・教員・保護者からいくつかの具体的な指摘を受けている。絶対数は少ないもののその提言を大切に受け止め、学校をよくするための手がかりとしたいと思っている。